

世界で最も美しい書店



とやま 富山市長(富山県) **もり 雅志**
Masashi Mori

本屋巡りの旅

「フェルメール全点踏破の旅」(朽木ゆり子著)という本に刺激され、平成18年からあちこちの都市を巡りフェルメールの作品を鑑賞してきました。この旅は大変で、途中で気持ちが折れそうになった日もありますが、平成28年7月のエジンバラ訪問でなんとか終わることができました。おかげさまで行方不明になっていた1作を除き、フェルメールの作と言われているものの全てを鑑賞することができました。有り難いことだと思います。僕にとってこの旅は生涯忘れ得ぬ旅になりました。

そして、この旅のゴールがおぼろげに見えてきた時期に、今回紹介したい一冊の本に出会ったのです。「世界で最も美しい書店」という写真集、あ



少女の立体オブジェ
(レール・デヴァガールにて)

旅のきっかけになった
ナレッジ本



るいはナレッジ本とも言うべきものです。清水玲奈さんという女性ジャーナリストが100軒近くの世界中の書店を巡って取材した上で20軒の書店を紹介している傑作本です。この本を初めて手にした時点では、まさか書店巡りの旅が始まるとは思っていませんでした。フェルメールの旅の終わりが近づくとつれて、むくむくと新しいステージへの意欲が湧き、次なる旅に突入してしまっただ次第です。

現在、その本が紹介している20軒の書店のうち15軒の訪問を終えています。15軒目は先の10連休を使って一人で訪ねたメキシコシティの書店です。残されているのはサンパウロの1軒、ブエノスアイレスの1軒、そしてベルギーの1軒、オランダの2軒ということになります。さすがに南米に行くのは骨が折れるので20軒全てを訪ねることはできないかも知れませんが、これからも機会を見つけて挑戦したいと思っています。

どんな本屋が?

いくつかの書店を紹介してみましょう。最初に紹介したいのはポルトガルの歴

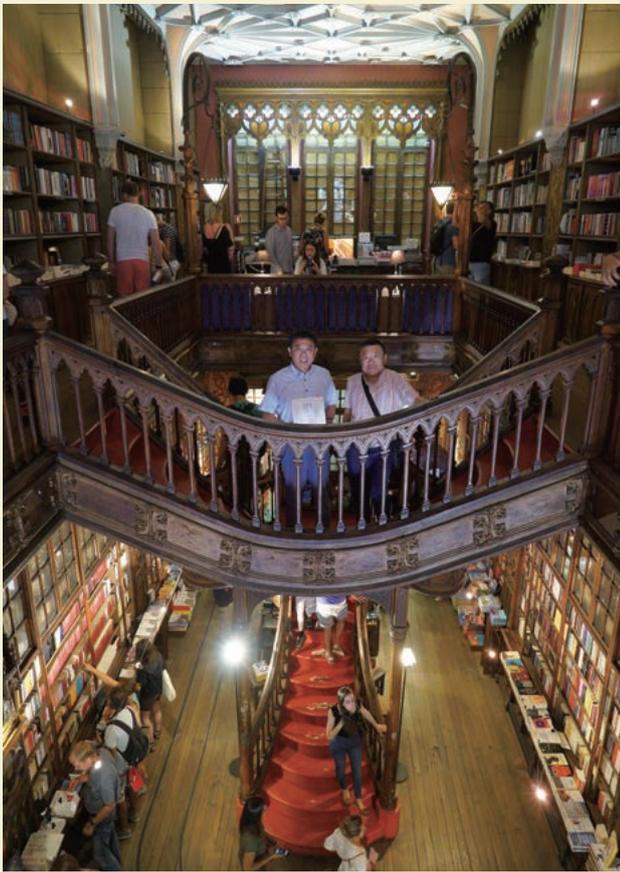


歓迎してくれたオーナー夫妻と一緒に (バーター・ブックスにて)

史都市ポルトーにあるレロ書店。ネオゴシック様式の美しい店内です。「天国への階段」と称される曲線美の階段が素晴らしい。最初から書店として建築されていない。最初から書店として建築されていない。訪れた時にはたまたまオーナーがいて楽しく歓談することができました。

ポルトガルからもう1軒。リスボンにあるレール・デヴァガールという店。この書店のユニークな点は、店内の空間を白い自転車に乗った少女の人形が動くという、驚くべき機械仕掛けの立体オブジェがあることです。コーヒーを飲みながら読書にふける人たちの上を、静かに自転車に乗った少女が駆け抜ける。なんという発想なのかと驚かされました。

そしてイングランドの北部の小さな街アニックにあるバーター・ブックスとい



天国への階段（レロ書店にて）

う書店。元は駅舎だったという石造りの風格ある大きな書店です。この店には、なんと35万冊もの在庫があるという。イギリス全土から訪ねて来た人たちが自分の読み終えた本を置いていき、その価値に見合うような本を持ち帰るというサービスが展開されているからです。オーナー夫妻は僕の訪問をとっても喜んでくれて、昼食をごちそうしてくれました。

次がロサンゼルス・ダウンタウンにあるザ・ラスト・ブックストア。元銀行だった建物を書店にしただけに荘厳な造りです。この書店のオーナーは電子書籍の普及やアマゾンの台頭に怯むことなく、ネット通販では満たされない本物の書籍文化と知的空間の創造を目指しているとのこと。店名に

はアンチ・アマゾンの意味が込められていると思います。

旅はいつ終わる？

本当は訪ね終えた全ての書店の紹介をしたいところですが、字数の制限があります。せめて今までに足を運んだ書店の名前と所在都市を披露しておきたいと思っています。

バーター・ブックス（イギリス アニック）、デイエチ・コルソ・コモ・ブックス（イタリア）、ドント・ブックス・マリルボーン（ロンドン）、バーツ・ブックス（ロサンゼルス）、レール・デヴァガール（リスボン）、ポプラ絵本館（北京）、VVGサムシング（台北）、レロ書店（ポルトガル ポルトー）、シェイクスピア・アンド・カンパニー（パリ）、ザ・ラスト・ブックストア（ロサンゼルス）、ザ・ブックワーム（北京）、アリオン・エスポジツィオーニ書店（ローマ）、アトランティス・ブックス（ギリシャ サントリーニ島）、カフェブレリア・エル・ペンドウロ（メキシコシティー）、代官山蔦屋書店（東京都渋谷区）

訪問できた15軒の書店は以上のとおりです。残りの5軒の書店も巡るべく僕の旅はこれからも続いていくのだろうなあ。ゴールが見えて来た感じがしないではないものの、まだまだ遠いと言わねばなりません。焦らずに次の機会を見つけて行けたら良いと思っています。



魅力あふれる三部作

ところが、同じ清水玲奈さんが出版した「世界の夢の本屋さん」という本があることを知り、よせばいいのに購入してしまいました。この本で紹介されている書店は33軒もあります。その上先の本と重複している書店は5軒だけなのです。気をつけないと、とんでもないことになりそうな予感がします。その上、清水さんが他の著者と共著した「世界の夢の図書館」という本まで買ってしまいました。かなり危険な兆候が出ています。危険を察知しつつ、次々と魅力的な本に引き付けられている僕はかなり落ち着きをなくしています。果たしてどうなりますやら。